

研 修 名	保健衛生・安全対策
	令和元年9月19日（木） 10:00～12:30
講 演	「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の 対応のためのガイドラインの理解」 「安全な環境づくりと安全の確認方法」
講 師	株式会社アイギス 脇 貴志 氏

1 講演要旨

① 保育の安全について考える

- ・危険な遊具 危険な遊びの特徴
固定遊具＝どれも危険がつきもの（最も事故が多いのは滑り台）
全ての遊具には危険があるのでいかに安全に遊べるかの方法を考えていく
＝職員の質の高さが求められる
- ・安全対策は内にあるか？外にあるか？
原因は内にあるので問題は内から考える
- ・保育現場で起きる全ての事故の原因は保育者の意識であり、意識の低さから
危機管理能力が問われる

② 保育現場が直面している社会問題

- ・どうすれば安全に保育ができるか対策を考えていく。その場しのぎの対応にならないようにする
- ・保護者との信頼関係を築く中で就学までに日常のしつけをしていく
- ・保育の本質は生きることを養うこと（知力・体力・能力）であり、今ある物で、
どうやって遊ぶかを自分で考え、且つ考えていくプロセス（気持ち）を大切に
していく。

③ 事故防止及び健康安全管理

- ・日々の保育内容について「なぜそれをするのか？何のためにするのか？それをするものの効果はあるのか？」という事を職員間で共有する事が大切である。
- ・危機管理はやるが（事故予防・事故対応）危機対応は準備していないことが致命傷になるので、他職種と繋がりを持つことが重要になり、社会の変化によって必要なもの、求められる部分も変わる事を理解した上で保育の見直しもしていく

2 感想

保育の安全について考える中ですべての物には危険なものがあり、安全に遊べるように職員同士のコミュニケーションを図り保育の現場の考えを改革し危機管理が必要だと思った。また固定遊具を使用しないで自分達で考える遊びを広げていき保育の質を高めたい。災害に対する事は、いち早く情報を知り安心安全に対応できるように保育士の意識を高めるようにしていきたいと思った。

（記録 コスモス保育園 木下久美子）